

2016年度第1四半期決算

取締役 兼 執行役員常務

財務・調達本部長 兼 グループ・グローバル経営推進本部長

荻原 弘之

2016年8月2日

古河電気工業株式会社

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社

- 営業利益は、前年比+14億円増(+44%増)の47億円
 - － 自動車部品事業（電装エレクトロニクスセグメント）が熊本地震の影響等により減益も、情報通信ソリューション（インフラセグメント）の好調継続、銅箔事業（機能製品セグメント）が構造改革効果等により増益に寄与

- 純利益は、前年比+24億円増の23億円
 - － 円高による為替差損の増加や持分法投資損益の悪化があったものの、営業利益増益に加え、投資有価証券売却による特別利益の計上等により増益

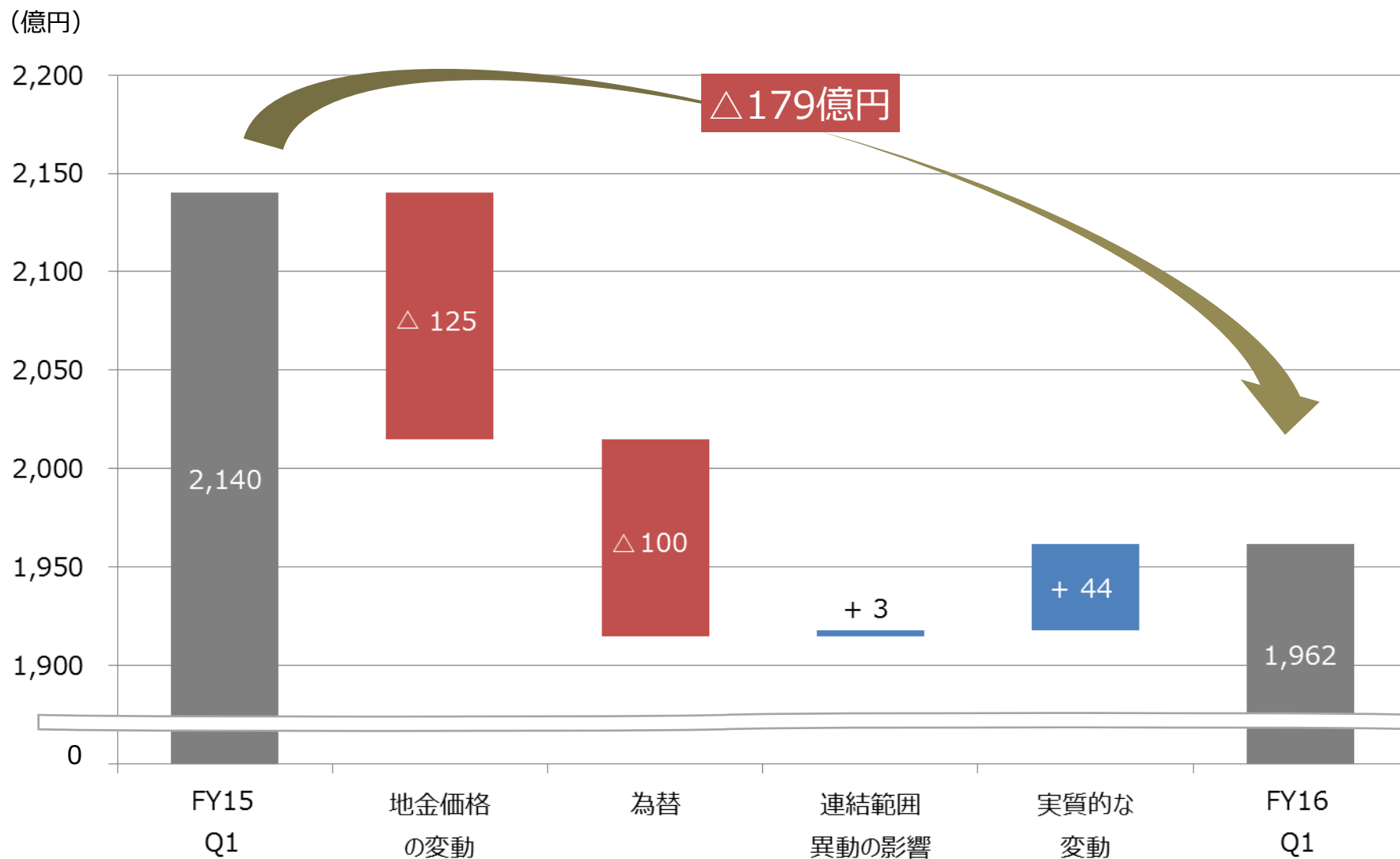
- 有利子負債は、前期比で減少
(15年度末 2,578億円 → 16年度Q1末 2,485億円)

16年度Q1実績 – 要約P&L

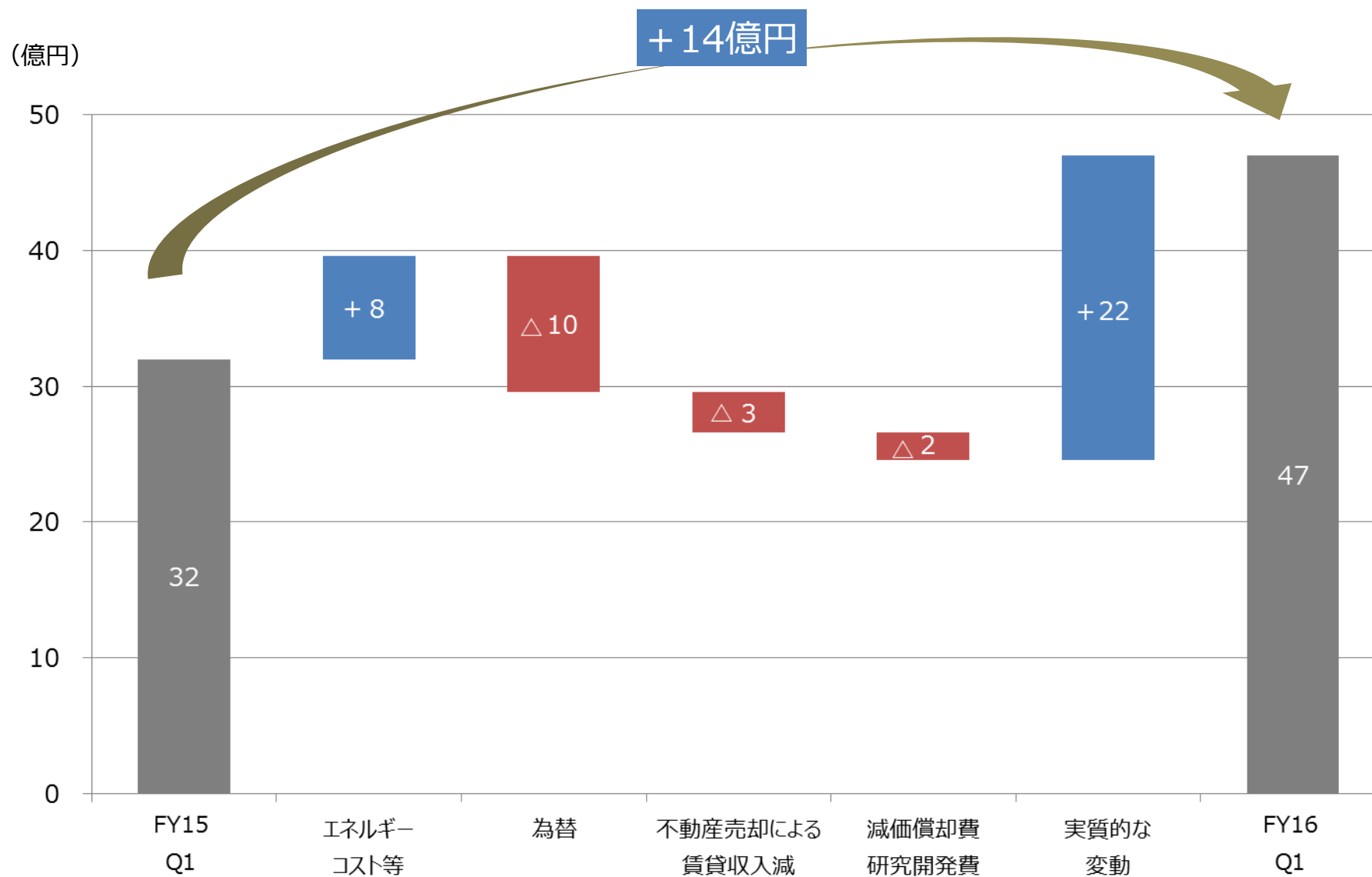
(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY15		FY16		前年比増減		主な増減内訳 (Q1)	FY16 年間予想
	Q1実績	上期実績	Q1実績	上期予想	Q1	上期		
	a	b	c	d	c-a	d-b		
売上高	2,140	4,282	1,962	4,100	△ 179	△ 182	5ページ参照	8,600
営業利益	32	91	47	95	+14	+4	6ページ参照	275
(率)	1.5%	2.1%	2.4%	2.3%	+0.9%	+0.2%		3.2%
持分法投資損益	2	5	0	–	△1	–		–
為替損益	△ 1	△ 6	△ 5	–	△5	–		–
経常利益	34	79	42	65	+7	△ 14		255
(率)	1.6%	1.9%	2.1%	1.6%	+0.5%	△ 0.3%		3.0%
特別損益	△ 8	△ 16	10	31	+18	+47	・特別利益：+15 (1→16) ・特別損失：+4 (△10→△6)	△ 6
法人税等	21	33	17	–	△ 4	–		–
非支配株主に帰属する 当期純利益	6	11	12	–	+6	–		–
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 0	20	23	50	+24	+30		125
(率)	0%	0.5%	1.2%	1.2%	+1.2%	+0.7%		1.5%
銅建値 平均	782	738	556	578	–	–		600
為替 平均	121	122	108	110	–	–		110

売上高の増減要因（前年比）



営業利益の増減要因（前年比）



16年度セグメント別Q1実績及び上期・年間予想 **FURUKAWA ELECTRIC**

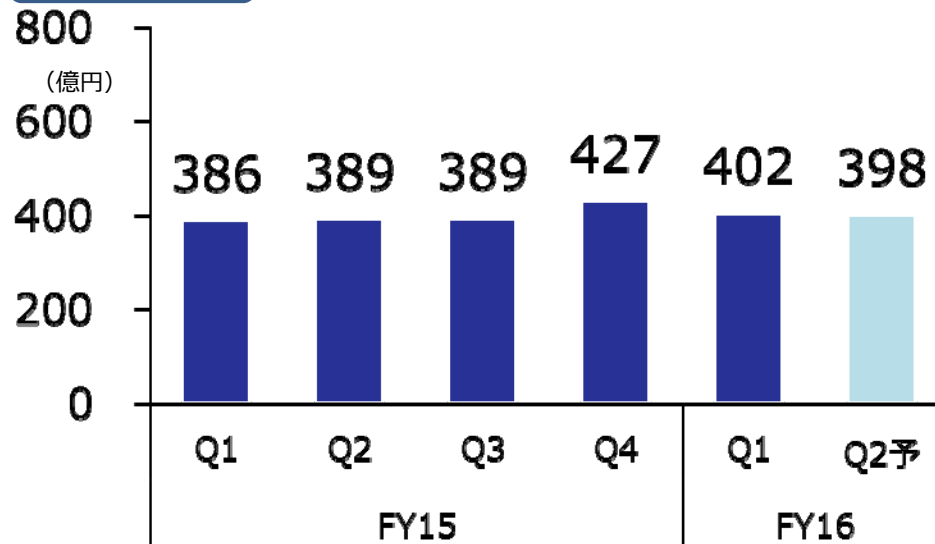
(単位：億円)

上段：売上高 下段：営業利益	FY16Q1実績		FY16上期予想		FY16年間予想		FY15 年間実績*
		前年差		前年差		前年差	
インフラ	618	19	1,250	17	2,600	73	2,527
情報通信ソリューション	402	16	800	25	1,550	▲ 41	1,591
エネルギーインフラ	216	2	450	▲ 8	1,050	115	935
電装エレクトロニクス	1,046	▲ 179	2,200	▲ 205	4,700	▲ 211	4,911
自動車部品・電池	503	▲ 53	1,100	▲ 1	2,400	59	2,341
電装エレクトロニクス材料	543	▲ 126	1,100	▲ 204	2,300	▲ 270	2,570
機能製品	332	▲ 5	700	14	1,400	37	1,363
サービス・開発等	116	▲ 9	250	2	500	▲ 15	515
連結消去	▲ 151	▲ 5	▲ 300	▲ 11	▲ 600	▲ 33	▲ 567
売上高	1,962	▲ 179	4,100	▲ 182	8,600	▲ 149	8,749
インフラ	23	19	38	13	75	▲ 2	77
情報通信ソリューション	28	17	43	12	81	1	80
エネルギーインフラ	▲ 5	2	▲ 5	1	▲ 6	▲ 3	▲ 3
電装エレクトロニクス	9	▲ 5	21	▲ 9	120	15	105
自動車部品・電池	4	▲ 8	17	▲ 3	90	10	80
電装エレクトロニクス材料	5	4	4	▲ 6	30	6	24
機能製品	19	4	41	4	85	0	85
サービス・開発等	▲ 4	▲ 4	▲ 5	▲ 5	▲ 5	▲ 9	4
連結消去	0	0	0	0	0	▲ 1	1
営業利益	47	14	95	4	275	4	271

* FY15実績について：5月11日に発表した2016年度経営プランでの「セグメント別売上高」の数値を修正しております

1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

売上高



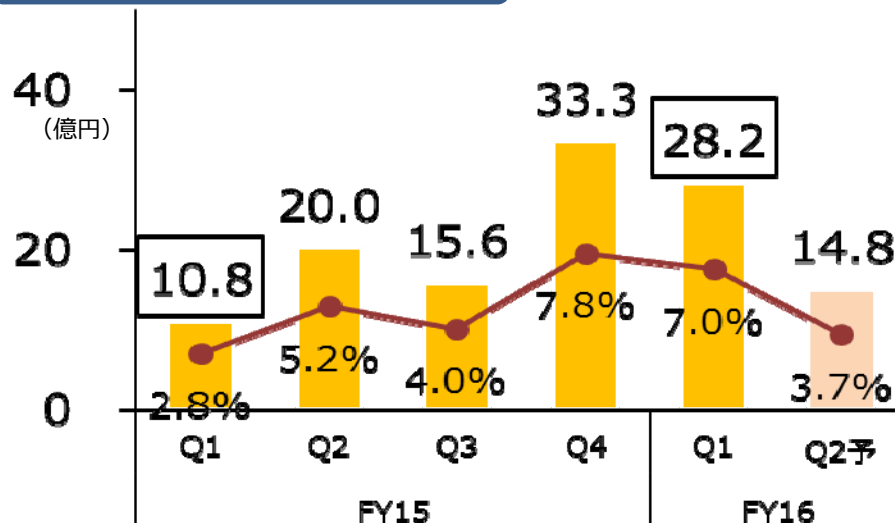
<営業利益の増減内容>

Q1実績：前年差 +17.4億円

□ : 増益要因 ■ : 減益要因

- 北米を中心とした光ファイバ需要増に加え、生産性向上が寄与
- デジタルコヒーレント関連製品の需要が堅調
- 円高による光ファイバ輸出、在外子会社の為替換算差が、売上・営業利益に影響

営業利益・営業利益率

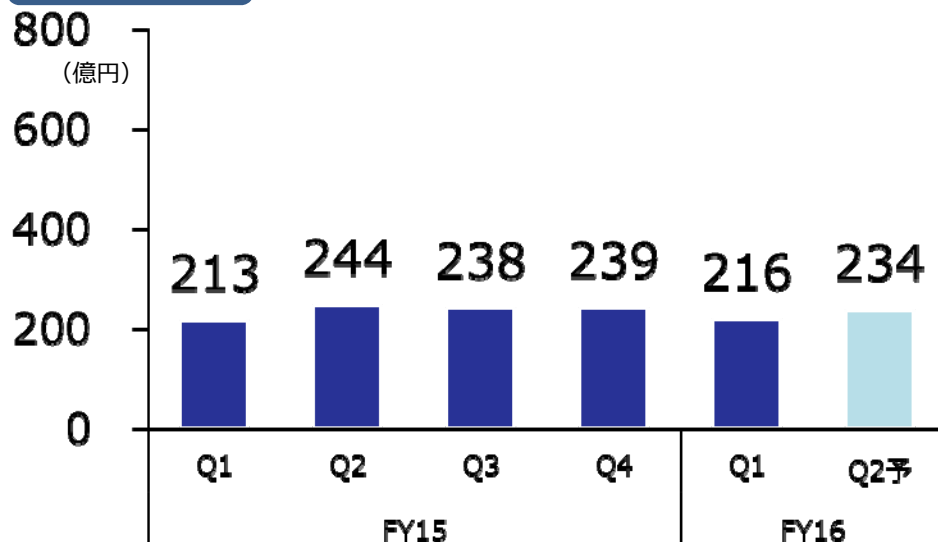


Q2予想

- ・ 光ファイバの需要好調は継続も、製品ミックスが一時的に悪化
- ・ ファイバ輸出で円高の影響が拡大

1-(2) インフラ(エネルギーインフラ)

売上高



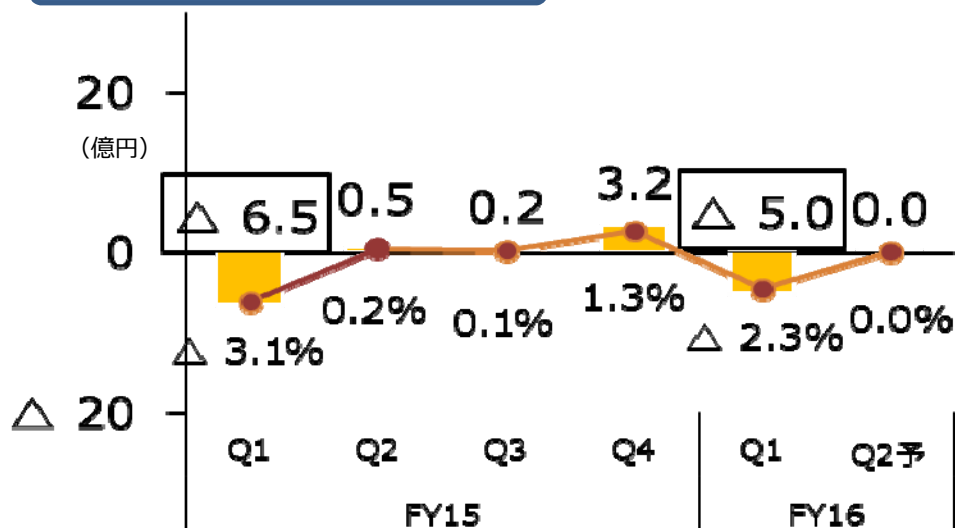
<営業利益の増減内容>

Q1実績：前年差 +1.5億円

□ : 増益要因 ■ : 減益要因

- 中国の高圧電カケーブルが、春節の影響で赤字ではあるものの、前年比では増収

営業利益・営業利益率

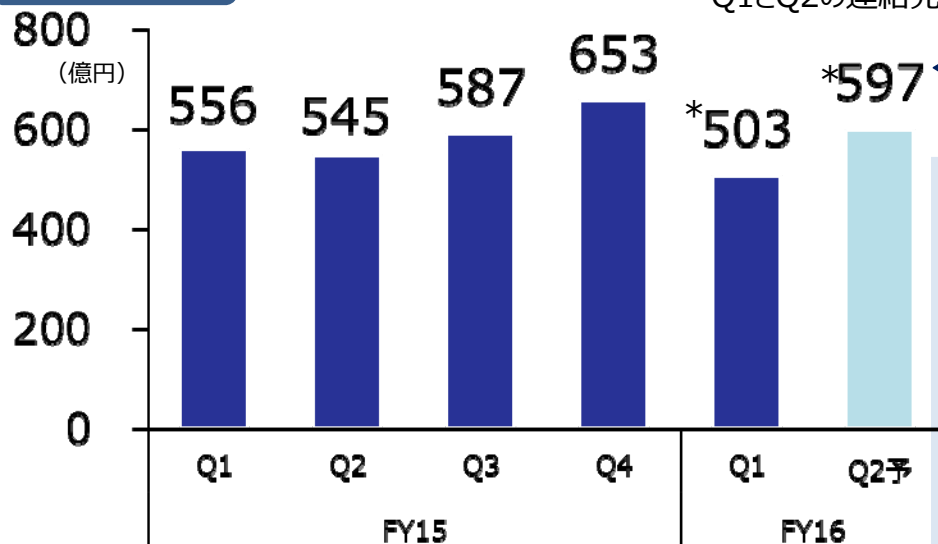


Q2予想

- 中国の光ファイバ複合架空地線 (OPGW) の売上増などで改善
- 国内電力会社の維持更新投資の回復で、送変電部品が好調

2-(1) 電装エレクトロニクス(自動車部品・電池) FURUKAWA ELECTRIC

売上高



* 海外製造委託子会社の決算期の差異により、Q1とQ2の連結売上消去に約20億円の入り繰りが生じております

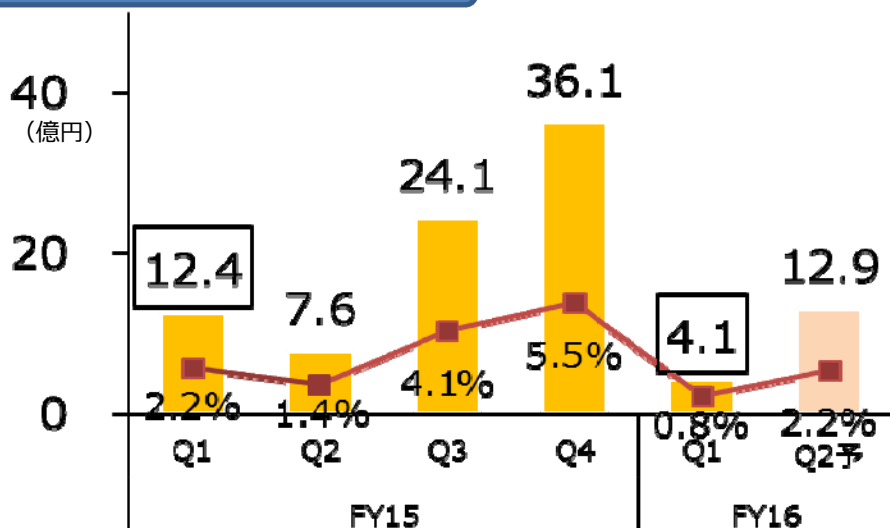
＜営業利益の増減内容＞

Q1実績：前年差 ▲8.3億円

□：増益要因 ■：減益要因

- 自動車部品は、熊本地震を含めた国内自動車メーカー生産減による減収と、償却費・開発費増による影響
- 電池は、鉛相場下落と為替の影響により減収

営業利益・営業利益率

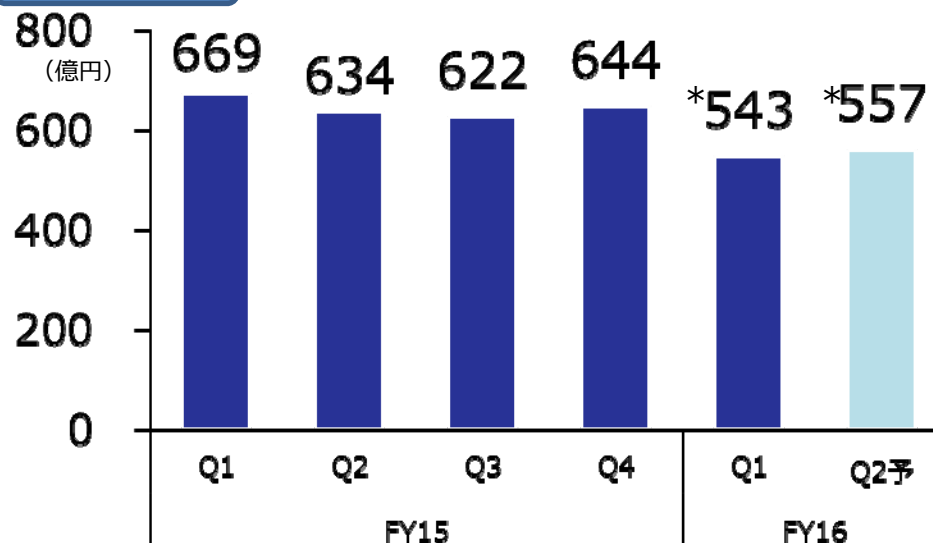


Q2予想

- ・ 自動車部品の国内需要が、熊本地震の影響からの回復等もあり、伸びる見通し
- ・ 電池は、為替影響は継続も、自動車用、産業用ともほぼ堅調

2-(2) 電装エレクトロニクス(電装エレクトロニクス材料)

売上高



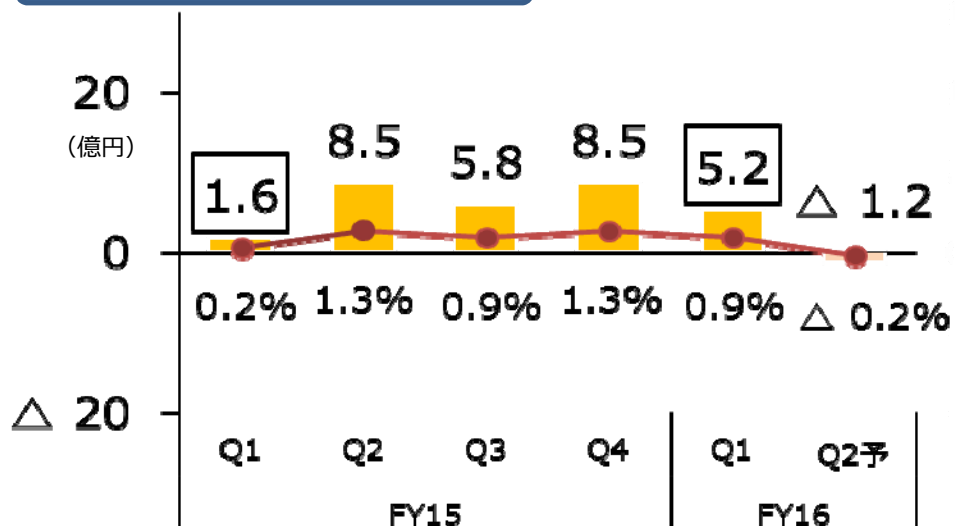
<営業利益の増減内容>

Q1実績：前年差 +3.5億円

□ : 増益要因 ■ : 減益要因

- 銅条は、純銅系製品の拡販が寄与し、売上回復
- 巻線は、自動車用平角線が堅調

営業利益・営業利益率

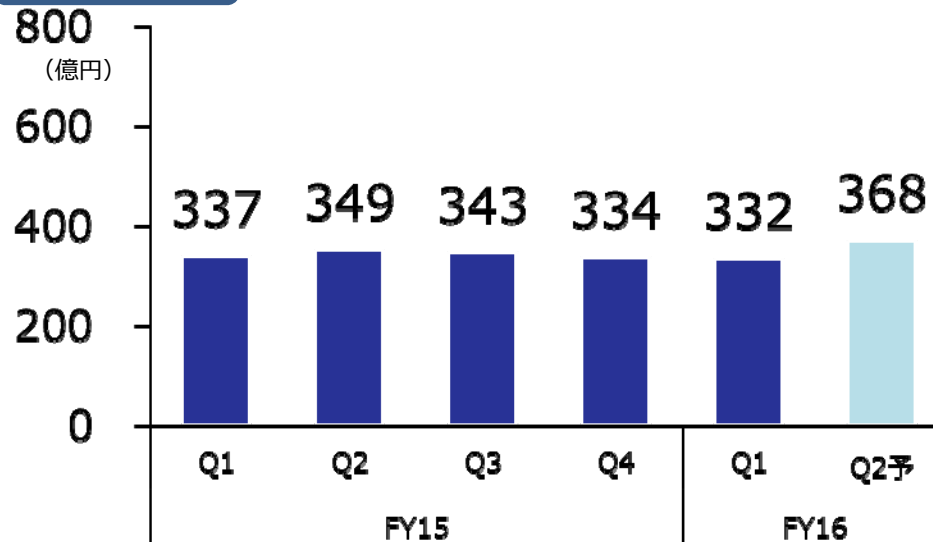


Q2予想

- ・ 銅条・高機能材の開発案件で一時的なコスト増

3 機能製品

売上高



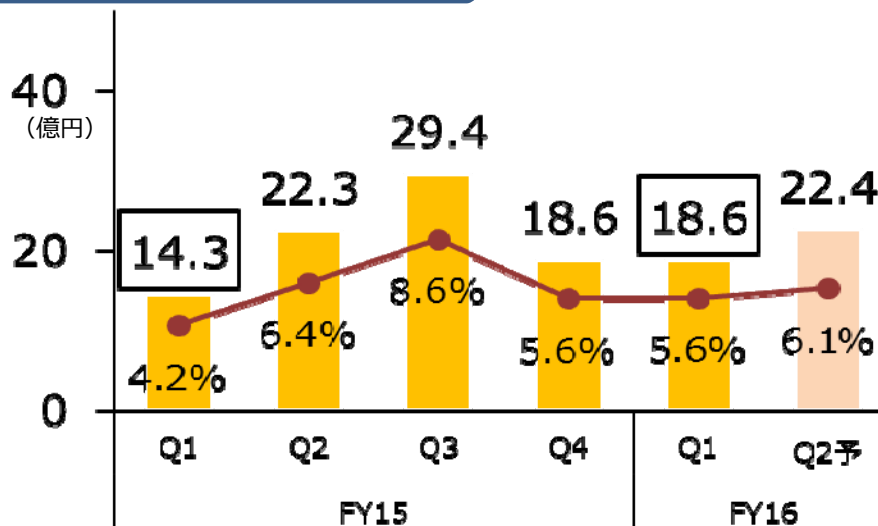
<営業利益の増減内容>

Q1実績：前年差 +4.3億円

□：増益要因 ■：減益要因

- 半導体製造用テープは、大口顧客の複数購買化は実施されたものの、需要増により増収
- 銅箔は、国内拠点の構造改革効果や台湾への製造移管、付加価値商品の構成比増が寄与
- サーマル・電子部品及びメモリーディスクは、P C などエレクトロニクス市場低迷で、減収

営業利益・営業利益率



Q2予想

- ・ 半導体製造用テープは、好調継続

16年度Q1実績 – 要約 B/S

(単位：億円)

	15Q4末	16Q1末	増減	主な増減要因
流動資産	3,640	3,429	△ 211	
現金及び預金	525	376	△ 149	15Q4末：資産売却による一時的な増加
受取手形及び売掛金	1,870	1,748	△ 122	主に為替変動の影響
固定資産	3,417	3,370	△ 47	
有形固定資産	1,965	1,935	△ 31	主に為替変動の影響
無形固定資産	85	81	△ 4	
投資その他の資産	1,366	1,355	△ 12	投資有価証券時価評価差額等
資産合計	7,057	6,799	△ 258	
流動負債	2,993	2,886	△ 108	
固定負債	2,078	1,976	△ 102	社債償還 △100
負債合計	5,071	4,862	△ 210	
株主資本	1,809	1,796	△ 13	
その他の包括利益累計額	△ 77	△ 114	△ 36	為替換算調整勘定 △52
非支配株主持分	254	255	1	
純資産合計	1,986	1,938	△ 48	
負債純資産合計	7,057	6,799	△ 258	
有利子負債	2,578	2,485	△ 93	社債償還 △100
自己資本比率	24.5%	24.7%	+0.2%	
D/Eレシオ	1.49	1.48	△ 0.01	

16年度Q1実績 設備投資額・減価償却費・研究開発費 **FURUKAWA ELECTRIC**

(単位：億円)

	FY15Q1	FY16Q1	前年差	FY16年間予想
設備投資額	53	45	△ 8	380
減価償却費	58	58	0	270
研究開発費	41	42	+2	180

Appendix…15年度セグメント実績（四半期ベース） **FURUKAWA ELECTRIC**

(単位：億円)

上段：売上高 下段：営業利益	FY15 Q1実績	FY15 Q2実績	FY15 Q3実績	FY15 Q4実績	FY15 年間実績
インフラ	599	633	628	667	2,527
情報通信ソリューション	386	389	389	427	1,591
エネルギーインフラ	213	244	238	239	935
電装エレクトロニクス	1,225	1,179	1,209	1,297	4,911
自動車部品・電池	556	545	587	653	2,341
電装エレクトロニクス材料	669	634	622	644	2,570
機能製品	337	349	343	334	1,363
サービス・開発等	125	123	133	134	515
連結消去	▲ 146	▲ 143	▲ 146	▲ 132	▲ 567
売上高	2,140	2,141	2,167	2,300	8,749
インフラ	4	21	16	37	77
情報通信ソリューション	11	20	16	33	80
エネルギーインフラ	▲ 7	1	0	3	▲ 3
電装エレクトロニクス	14	16	30	45	105
自動車部品・電池	12	8	24	36	80
電装エレクトロニクス材料	2	8	6	8	24
機能製品	14	22	29	19	85
サービス・開発等	0	0	2	2	4
連結消去	0	0	0	0	1
営業利益	32	59	78	102	271

ご清聴ありがとうございました。

Bound to  *Innovate*